

平成 30 年度

事業報告書

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

一般財団法人 草間彌生記念芸術財団

東京都新宿区弁天町 109

I. 事業報告

○事業の主旨

草間彌生美術館は前衛芸術家・草間彌生が設立し運営している。草間作品および関係資料の展示を通じて草間芸術の普及振興を図り、芸術全般の発展に寄与することを目的とし諸事業を展開している。

今年度もその理念に基づき、収蔵作品（収蔵予定作品を含む）を年2回の展覧会にて紹介、講演会や子ども向けワークショップなどの催事を実施した。

草間が作品を通じて繰り返し訴えてきた、世界平和と人間愛というメッセージを広く世界へ伝え、多くの方々に現代美術に慣れ親しんでいただく美術館を目指している。

○施設の概要

平成29年10月に開館した当館は、地上5階（展示ギャラリー、ブラウジングスペース、ショップ）、地下2階（収蔵庫）。敷地面積247㎡、延床面積731㎡で、階段またはエレベーターで1階から順番に上の階へあがり展示ギャラリースペースへ進み、下りはすべてエレベーターを使用としている。

美術館から徒歩1分の至近距離に事務局があり、美術館とは密接な連携がとれる環境となっている。

1. 常設企画展

今年度は二回の常設企画展を企画・実施した。展覧会会期はそれぞれ5か月間、美術館開館日は木・金・土・日曜および国民の祝日で、第2回展までは、入場は1日4回転（1回70名）としたが、運営上問題がないことを確認できたので、第3回展からは1日6回転制を導入し、開館時間は11時から17時30分までとした。

美術館敷地内に入場のための列をつくるスペースなどの余剰が少ないため、混雑緩和と近隣地域への配慮から事前予約制をとり、チケットは美術館の公式webサイトのみで販売という独自の方法を採用しており、1日420名の収容で運営が可能であるという実証もできた。開館からこれまでのチケットはすべて完売している。

平成30年度は、開館日数170日間に来館者51,938名（うち有料来館者49,973名）であった。来館者数の1日平均は306名となった。海外からの来館も増え続け4割近くとなっている。

各展覧会では、テーマに基づいて最新の絵画シリーズの紹介と共に作家の代表的な作品を紹介し、その創作の軌跡を来館者が学び体験を通じて楽しんで鑑賞できる企画展を開催した。出品作品はペインティング、ドローイング、立体、体験型インスタレ

ーション、映像など多岐に渡り計 94 点を紹介している。展覧会は、当館学芸課が企画し、作品選定、運搬、会場構成、展示、作品リスト、図録などの作成を行った。海外からの来館者にも理解しやすいよう、バイリンガル表記の作品リスト、図録とし、Web サイトもバイリンガル対応としている。外部業者へ委託し、館内監視、来館者の受付対応、チケット販売などを行い、美術館の鑑賞環境の向上に協力を得た。

教育普及活動としては、展覧会会期中に講演会を開催した。第 2 回展までは美術館 3 階の展示フロアに椅子席を設置して行ったが、より多数の方の参加を見込み、第 3 回展からは徒歩 3 分の至近距離にある区立漱石山房記念館講座室に会場を変更し定員 70 名と拡大した。

また当館スタッフによるギャラリートークは月 2 回・週末に展示フロアにて開催し約 800 名の参加があり、来館者からの具体的な感触も得ながら内容を改善することにもつなげることができた。

展覧会ごとに図録を制作・美術館のショップで販売している。発行は一般財団法人草間彌生記念芸術財団で日英バイリンガル・A4 変型ハードカバーの体裁。

○第 2 回展覧会企画

「さあ、今、我が人生の最大の出発にきた」概要

タイトル 「さあ、今、我が人生の最大の出発にきた」

会 期 2018 年 4 月 1 日（日）～8 月 31 日（金）

プレスレビュー 2018 年 4 月 1 日（日）10：00～12：00

開催日数 89 日間

入場時間 ①11：00～12：30

②12：30～14：00

③14：00～15：30

④15：30～17：00

11：00 から各 90 分枠の 4 回転制、2 か月前の 1 日からチケットは美術館ウェブサイトのみに販売

事前予約・定員 70 名・入替制、当日券はありません。

観覧料 一般 1,000 円 小中学生 600 円

※未就学児は無料。団体割引の設定はなし。

入場者数 21,296 名

1 日平均 約 239 名

図録 A4 変型 51 ページ・ハードカバー・日英バイリンガル

チラシ A4

出品点数 58 点

担当者 前山裕一（学芸員） ※前山学芸員は 2018 年 3 月末にて退職。

企画趣旨

草間彌生の作家としての出発点となる1950年代に故郷の松本などで描いたドローイングや水彩作品を、前期・後期に分けて合計40点展示。
現在最も力を入れて制作している最新の絵画シリーズ《わが永遠の魂》16点と、開館展から継続してインスタレーション作品《無限の彼方へかぼちゃは愛を叫んでゆく》、屋上の新作かぼちゃ立体作品《Starry Pumpkin》を展示した。

入館者数統計

月	開館日数	入館者数	1日平均
4	18日	4,457名	約248名
5	17	3,598名	212名
6	18	4,325名	240名
7	18	4,442名	247名
8	18	4,474名	249名
計	89日	21,296名	約239名

出品リスト

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横）	所蔵（記載の無いものは草間彌生美術館所蔵予定）
1	無題	草間彌生	c.1950	インク、パステル、紙	27×18.7 cm	
2	昼の燐光	草間彌生	c.1950	インク、パステル、紙	25.2×17.5 cm	
3	無題	草間彌生	1951	グワッシュ、パステル、紙	30.5×24 cm	
4	大地	草間彌生	1951	グワッシュ、パステル、紙	30×24 cm	
5	別離	草間彌生	1952	インク、水彩、糸、絹布、コラージュ、紙	45×53 cm	
6	発芽 # 6	草間彌生	1952	インク、パステル、紙	35.8×25.2 cm	
7	花の芽	草間彌生	1952	パステル、水彩、紙	27×18.7 cm	
8	Tree	草間彌生	1952	グワッシュ、パステル、紙	25.5×18 cm	

9	A Flower #4	草間彌生	1952	グワッシュ、パステル、紙	26.4×19.5 cm	
10	GREEN FLOWER	草間彌生	1952	グワッシュ、パステル、紙	33×31.5 cm	
11	花	草間彌生	1952	インク、紙	27×18.7 cm	
12	The Germ	草間彌生	1952	インク、パステル、紙	24.7×18 cm	
13	動物	草間彌生	1952	インク、水彩、パステル、紙	27×18.7 cm	
14	植物の茎	草間彌生	1952	インク、水彩、紙	25.0×18 cm	
15	FLEEING EYE	草間彌生	1953	インク、水彩、紙	22.5×29.7 cm	
16	無題	草間彌生	1953	グワッシュ、パステル、紙	35×24.5 cm	
17	FLOWER X.P	草間彌生	1953	グワッシュ、パステル、紙	25.3×21.2 cm	
18	Flower	草間彌生	1953	パステル、紙	27.3×20 cm	個人蔵
19	THE NIGHT	草間彌生	1953	水彩、紙	38×30.8 cm	
20	眼	草間彌生	1953	パステル、水彩、紙	27.5×20.3 cm	
21	FLYING PEOPLE	草間彌生	1953	インク、パステル、紙	27.2×20.2 cm	
22	魚	草間彌生	1953	インク、水彩、パステル、紙	22.5×29.5 cm	
23	花頭	草間彌生	1953	グワッシュ、パステル、紙	32×29.7 cm	
24	無題	草間彌生	1953	グワッシュ、インク、紙	27.3×20.5 cm	
25	地の底のもえる火	草間彌生	1953	グワッシュ、インク、紙	29×22 cm	
26	無題	草間彌生	1953	インク、パステル、グワッシュ、紙	29.5×22.5cm	
27	THE FLOWER (No 3)	草間彌生	1953	グワッシュ、パステル、紙	39.7×33.2 cm	
28	ISLAND #27	草間彌生	1953	水彩、紙	32.5×30.2 cm	

29	島 (No41)	草間彌生	1953	グワッシュ、パステル、紙	23.5×31 cm	
30	A FACE (No2)	草間彌生	1953	グワッシュ、紙	27.4×20.3 cm	
31	CATHEDRAL No2	草間彌生	1953 / c. 1964	ミクストメディア、紙	29×25.8 cm	
32	磁性体	草間彌生	1954	インク、水彩、コラージュ、紙	49.2×40 cm	
33	無題	草間彌生	1954	グワッシュ、インク、紙	24.9×17.5 cm	
34	無題	草間彌生	1954	グワッシュ、インク、紙	46.7×51.2 cm	
35	疑惑	草間彌生	1954	グワッシュ、紙	37.9×30 cm	
36	無題	草間彌生	1954	グワッシュ、パステル、紙	50.6×46.3 cm	
37	ツボミ	草間彌生	1954	インク、水彩、パステル、紙	25×17.8 cm	
38	Leaves	草間彌生	1954	グワッシュ、紙	20.1×27.3 cm	
39	Encounter	草間彌生	1954	グワッシュ、紙	71.1×59.6 cm	個人蔵
40	No. 10. F.B.	草間彌生	1959	インク、パステル、紙	60×70.8 cm	個人蔵
41	愛のすがた	草間彌生	2012	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
42	みんなは平和を求めている	草間彌生	2013	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
43	人生の距離	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
44	青春をたべてみたい	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
45	幸いのすべて	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
46	我が死の祭壇はかくのごとく	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
47	恋の侘しさを超えて	草間彌生	2015	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
48	命の限り	草間彌生	2015	アクリル・キャンバス	194×194 cm	

49	人生を愛してきた私	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
50	無限の心	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
51	原爆の足跡	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
52	祭りの中の群衆	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
53	夢は舞っていた	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
54	宇宙へ見物へ行った 女たち	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
55	人生の行路	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
56	わが五体が生を去る 日は月は栄光を止め るだろう	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
57	無限の彼方へかぼち ゃは愛を叫んでゆく	草間彌生	2017	ミクストメディア	サイズ可変	
58	Starry Pumpkin	草間彌生	2015	F.R.P.、タイル	181×202×203 cm	個人蔵

○関連企画

講演会

館長による講演会では、展覧会の企画意図、作家の制作の実際とこれまでの創作活動の軌跡についてモニターを活用しながら紹介した。

日時：5月12日（土）14：30～15：30

講師：館長 建畠哲

参加者数：30名

場所：草間彌生美術館3F展示室



ギャラリートーク

当館スタッフによるギャラリートークは月 2 回のペースで実施し、各フロアに展示された作品の特徴や制作の背景、美術館の概要について話し、スタッフの鑑賞の視点を伝えることで各来場者の鑑賞活動を促した。

担当：当館スタッフ

日時：各回 14：30～、計 10 回開催（以下参照）

場所：草間彌生美術館 3F 展示室

実施日	参加者数
4 月 14 日（土）	30 名
28 日（土）	37 名
5 月 20 日（日）	40 名
26 日（土）	40 名
6 月 9 日（土）	50 名
30 日（土）	30 名
7 月 7 日（土）	40 名
21 日（土）	35 名
8 月 4 日（土）	40 名
25 日（土）	37 名
計 10 回	379 名

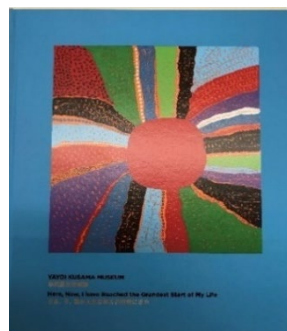


展覧会図録制作

発行：2018 年 4 月/一般財団法人草間彌生記念芸術財団

体裁：規格外 A4 変型ハードカバー・48P・日英バイリンガル

価格：2,000 円



○第3回展覧会企画

「未来へのわが展望をみてほしい—植物とわたし」概要

タイトル 「未来へのわが展望をみてほしい—植物とわたし」

会 期 2018年10月4日（木）～2019年2月28日（木）

プレスレビュー 2018年10月3日（水）

開催日数 81日間

入場時間 ①11：00～12：30

②12：00～13：30

③13：00～14：30

④14：00～15：30

⑤15：00～16：30

⑥16：00～17：30

11：00 から各 90 分枠の 6 回転制、2 か月前の 1 日からチケットは美術館ウェブサイトのみで販売

事前予約・定員 70 名・入替制

観覧料 一般 1,000 円 小中学生 600 円

※未就学児は無料。団体割引の設定はなし。

入場者数 30,642 名

1 日平均 約 378 名

図録 A4 変型 51 ページ・ハードカバー・日英バイリンガル

チラシ A4

出品点数 36 点

担当者 黒沢聖覇（学芸員補）

企画趣旨

種苗業を営む旧家に生まれた草間彌生にとって、植物は愛すべき対象であると同時に幻覚による恐怖を与える存在であり、自己を投影する対象でもある。初期から現在に至るまで、数多く制作してきた植物を主題とした作品と多様な自画像をとりあげ作品の中に登場する自己イメージとその展開によっていかにオブセクションを乗り越えてきたのか、その創作の世界を紹介した。

入館者数統計

月	開館日数	入館者数	1日平均
10	17日	7,140名	約420名
11	18	7,560名	420名
12	15	6,300名	420名
1	14	5,880名	420名
2	17	7,140名	420名
計	81日	34,020名	約420名

出品リスト

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横）	所蔵（記載の無いものは草間彌生美術館所蔵予定）
1	無題（花のスケッチ）	草間彌生	1945	鉛筆・ノート	21.5×30 cm	
2	玉葱	草間彌生	1948	岩彩・紙	35.9×59 cm	
3	残夢	草間彌生	1949	岩彩・紙	136.5×151.7 cm	
4	自画像	草間彌生	1950	油彩・キャンバス	34 ×24 cm	
5	落花のアキュミレーション	草間彌生	1955	油彩・板に貼ったキャンバス	45.4×37.9 cm	
6	Self-Obliteration by Dots	草間彌生	1968	Photo by Hal Reiff	サイズ可変	
7	自画像	草間彌生	1972	コラージュ・インク、ボールペン、パステル・紙	74.4 ×44 cm	
8	花と自画像	草間彌生	1973	コラージュ、水彩、インク・紙	53 ×42 cm	個人蔵
9	夏の初(はじ)まり	草間彌生	1978	コラージュ、グワッシュ・紙	54.3×39.7 c m	
10	かぼちゃ	草間彌生	1991	アクリル・キャンバス	91×116.7 cm	
11	かぼちゃ	草間彌生	1991	アクリル・キャンバス	91×116.7 cm	
12	黒い花	草間彌生	1986	ミクストメディア	225×145×63 cm	個人蔵
13	シャングリラの鏡	草間彌生	1999	ミクストメディア	92.5×96×26 cm	
14	花強迫（ガーベラ）	草間彌生	1999	ビデオ	1 分 21 秒	

15	花強迫（ひまわり）	草間彌生	2000	ビデオ	2 分 40 秒	
16	かぼちゃ	草間彌生	2016	詰め物入り布、アクリル、金属	ø58.5×50 cm	
17	燃え上がる死への願望をおさえて	草間彌生	2016	詰め物入り布、アクリル、金属	ø50×50 cm	
18	日暮れて孤独にして怖れ	草間彌生	2016	詰め物入り布、アクリル、金属	ø45×48 cm	
19	心から生命の賛美をうたい上げたい	草間彌生	2009	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
20	いまこそ生命の輝きを見てほしい	草間彌生	2009	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
21	花園にうずもれた心	草間彌生	2009	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
22	青春の彼方	草間彌生	2012	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
23	夕焼けの花園	草間彌生	2012	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
24	宇宙に咲いた花園	草間彌生	2013	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
25	人間たちの営み	草間彌生	2013	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
26	花園に立ちて	草間彌生	2013	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
27	華をつみに行こう	草間彌生	2013	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
28	一人、花園に埋もれば	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
29	夕焼けの花壇	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
30	開花の季節に涙するわたし	草間彌生	2015	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
31	花の香りたち	草間彌生	2015	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
32	花は語る	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
33	我が幼なかり日々の全て	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
34	去ってゆく冬	草間彌生	2005	ガラス	180×80×80 cm	
35	無限の彼方へかぼちゃは愛を叫んでゆく	草間彌生	2017	ミクストメディア	サイズ可変	
36	Starry Pumpkin	草間彌生	2015	F.R.P.、タイル	181×202×203 cm	個人蔵

○関連企画

講演会

館長による講演会は、植物というモチーフにまつわる話や、展示作品以外の若い頃から最近に至るまで草間作品にたびたび登場する植物に関連する作品を映像で紹介し、草間作品の軌跡を辿った。

また今回から、会場を美術館から徒歩3分の区立漱石山房記念館の講座室を利用し事前の告知を美術館のwebと区報で実施した結果、より多数の参加申込みがあり抽選により講演会の聴講と、その後約1時間美術館を来館できるようにした。

日時：2018年11月17日（土）13：30～14：30

講師：館長 建畠哲

参加者数：70名

場所：区立漱石山房記念館講座室



ギャラリートーク

当館スタッフによるギャラリートークは月2回のペースで実施し、各フロアに展示された作品の特徴や制作の背景、美術館の概要について話し、鑑賞活動を促進した。

担当：当館スタッフ

日時：各回14：15～、計10回開催（以下参照）

場所：草間彌生美術館3F展示室

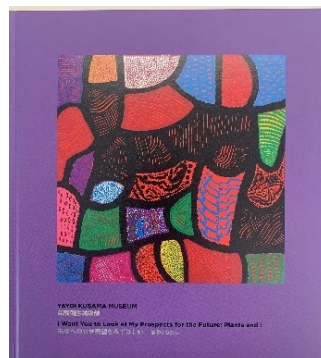
実施日	参加者数
10月6日（土）	30名
21日（日）	40名
11月3日（土・祝）	40名
10日（土）	40名
12月1日（土）	38名
16日（日）	40名
1月12日（土）	48名
26日（土）	35名
2月9日（土）	40名

16 日 (土)	30 名
計 10 回	381 名



展覧会図録制作

発行：2018 年 4 月/一般財団法人草間彌生記念芸術財団
 体裁：規格外 A4 変型ハードカバー・48P・日英バイリンガル
 価格：2,000 円



2. 教育・普及活動

当館では現代美術の普及と理解を広めるため、子供から大人まで様々な年齢層に向けた教育普及プログラムを展開している。展示作品への関心を深め、鑑賞後の印象や感想を家族や知人と交換する機会を提供し、草間作品を通して現代美術をより身近に体験してもらうことを目指したプログラムの推進に積極的に取り組んできた。

各展覧会の会期中に開催した講演会、月 2 回開催するギャラリートークは前述したが、それ以外に各展覧会からは独立し、特定のテーマについてのレクチャー「講座シリーズ」もスタートし、より詳細に作家や作品についての理解を深める機会を設けた。

子ども向けには、自分の手を動かして作品を生み出す体験ができる少人数対応のワークショップを実施している。また、美術館へ来館する小学生には鑑賞を補助するツールとして質問や疑問を載せた「美術館たんけんワークシート」を展覧会にあわせて配布している。答えを探すために楽しみながら美術館を巡る機会を提供することで、作品をじっくり見る力の養成に役立ちたいと考えており、海外からの来館者も多いので日本語・英語版を用意し対応した。特に子どもの来場が多い夏休みの時期には、「こどもガイド vol.1」として芸術家草間彌生の活動と作品について絵本形式で紹介した資料を制作し配布した。スクールプログラムでは小学生を美術館の休館日に受け入れ、実物の作品を前にしながら学ぶ場としての美術館活用を提案している。新宿区内の小学校との連携によって数校実施し、さらに新宿区立小学校の図工の教員の研修を実施したいというリクエストにも応じた。その場では子ども達がどのように美術館を体験し、楽しみながら学ぶかについて意見を聞くことができた。今後は区内にとどまらず、広く小学校によびかけて実施を増やしていき、将来的には対象を中学生、高校生などへと広げていく予定。

また、教育普及活動のさらなる充実を進めるため、美術館スタッフ以外に大学生などに協力を呼びかけ、実際の現場での経験を通じたボランティアの育成支援も準備している。

○一般向けプログラム

講座シリーズ

開催中の展覧会に限らず広く草間作品全般を対象とし、各回テーマを設定し、作品が生まれた背景、美術史上の意義や他作家との関係性を考察した。また告知は美術館 Web サイトに加え、新宿区報にも掲載したところ多数の応募があり抽選となった。

日時：2019 年 2 月 2 日（土）13：15～14：15

講師：学芸課長 塩田純一

内容：「草間彌生《千のボート・ショー》をめぐって」と題し、1963 年にニューヨークで発表されたソフトスカルプチャーの作品にフォーカスし、'60 年代のニューヨークのアートシーンにおける草間彌生について、また他の草間作品にも通じる「集合」と「集積」という特徴について作品を紹介しながら講演。

参加者数：71 名

場所：区立漱石山房記念館講座室



○子ども向けプログラム

美術館たんけんワークシート

こども向けの鑑賞ツールとして美術館たんけんワークシートを展覧会ごとに作成した。作品に登場する人物の会話の内容を想像したり、作品に使われているさまざまな色を探したりできるように、出展作品に合わせて本展覧会のために作り、来場したこどもたちに配布した。

対象：小学生

用具：ワークシートと鉛筆、画板のセット

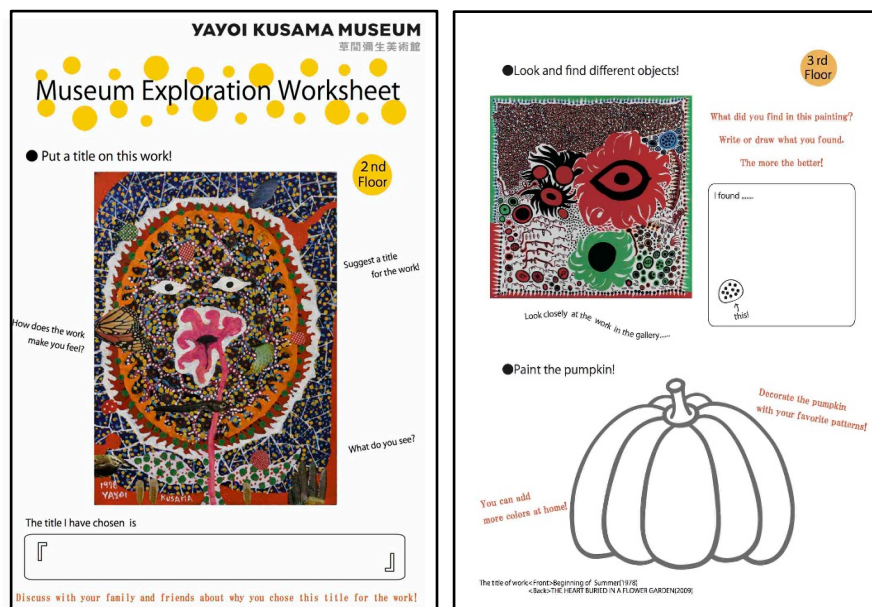
参加者数：第2回展 日本語 301 名/英語 106 名（89 日間）

第3回展 日本語 294 名/英語 93 名（81 日間）

・2 回展



・ 3 回展
(英語版)



こどもワークショップ

月 2 回程度、週末の開館時間前にこども（保護者同伴）が参加するワークショップを開催した。告知は美術館 Web サイトと、専用チラシを作成し近隣の児童館、了解がとれた小学校などへ配布したところ応募が大きく増えた。運営・進行および制作サポートは学芸・教育普及スタッフと大学生のボランティア 2～3 名が担当している。

内容：展覧会の作品の一部を鑑賞しながら、それに合ったテーマで制作を行った。

第 2 回展「だれかのかおをかいてみよう！」では、ポートレート作品が数点出展されていたので、子どもたちと作品を鑑賞しながら話をした後で、色紙に自画像や友達の顔を色鉛筆、シールなどをつかいながらそれぞれのポートレート作品を描いた。

第 3 回展は「みつけて、きって、はって、〇〇とわたし」と題してコラージュ作品に注目し作品を鑑賞した後で、参加者に持参してもらった自分の写真に、用意してあったコラージュの素材を自由に組み合わせ貼ったり、絵を描きコラージュづくりを体験した。

日時：週末の開館前の 1 時間 （以下に実施日を記載）

場所：美術館 1F スペース（作業机と材料を準備）

参加者：幼児から小学生まで

・第2回展

実施日	参加者
5月19日(土)	幼児～小学4年生まで 11名
6月16日(土)	幼児～小学3年生まで 5名
8月26日(日)	幼児～小学3年生まで 9名

※7月は美術館の都合により開催しなかった。



・第3回展

実施日	参加者
11月17日(土)	幼児～小学3年生まで 8名
12月16日(日)	小1～小学4年生まで 9名
2019年2月17日(日)	幼児～小学2年生まで 10名



○スクールプログラム (学校連携プログラムから名称を変更しました。)

小学校の図工の教員勉強会

昨年度見学ツアーを実施した図工の先生からのご相談で、区内の小学校の図工担当の教員の勉強会を休館日に開催した。課外授業を行う以前に、教師が現代美術に実際に触れてみる機会を提供し、またこども達の体験プログラムについて専門家と意見交換することもでき今後に生かすヒントを得た。

日時： 7月4日（水）13：45～15：00

参加者数： 30名

小学生対象のツアー

休館日に受け入れを実施しているので、生徒たちが作品を間近かに鑑賞体験でき、自由に会話・発言し、先生も他の来館者を意識することなく指導できる場となっている。事前の打ち合わせを通じて、美術館のこども向けコンテンツ「美術館たんけんワークシート」の提供や、美術館での基本ルールなどオリエンテーションを行った。

日時： 9月26日（水）

学校名： 新宿区立早稲田小学校

参加者： 小学5年生87名

同伴の先生：4名



小学生対象のツアー

日時： 11月14日（水）・12月4日（火）

学校名： 新宿区立鶴巻小学校

参加者： 全校生徒130名（5グループ）

同伴の先生：10名



○こどもガイド

夏休み期間のこどもの来館者が多い8月に、芸術家草間彌生の活動と作品について絵本形式でイラストとテキストで紹介する資料を作成し、美術館受付にて配布した。作家のこども時代の話から、世界的な画家になるために単身アメリカへ渡り現在に至るまでの多様な活動を、こどもにもわかりやすく紹介するよう試みた。こどもたちの人生の参考になるよう、家族や友達と共有して話し合ったり、夏休みの自由研究の一助となることも視野に入れた。

対象：小学生

仕様：A4 二つ折り・カラー

配布数：105 部



・裏表紙・表紙



・中面

3. その他の実施事業

○草間彌生に関する作品や資料の収集・保存および調査・研究

作品・資料の収集

作品の収集

関連資料の収集

関連書籍等の収集

作品や資料の保存

作品や資料の保存管理

作品や資料のデジタルアーカイブ（計画段階）

作品や資料の調査・研究

作品・展示解説を掲載した図録の制作・発行と、関連機関への寄贈

作品に関する評論等の調査・研究

活動成果・研究成果の公開「美術館の活動報告」の発行（年1回）

今年度、学芸員による研究紀要第1号を発刊。（美術館 web サイトにて掲載）

①「植物とわたし-草間形態学の系譜」 黒澤聖覇

②「草間彌生美術館における教育普及活動」 宮下咲

○その他、財団の目的達成のために必要な活動

ミュージアムショップの運営、美術館グッズの制作・販売

美術館の1階のミュージアムショップでは、開催展覧会にあわせ開発・制作した商品と草間彌生スタジオの協力により既存グッズから選定し、来館者からのニーズにも応える商品構成とした。今後はオリジナルグッズの拡充による来館者の満足度向上、および美術館の収益拡大をはかっていきたい。

商品例

・オリジナルグッズ

展覧会カタログ、ポストカードセット

ハンカチ（2種類・各3バージョン）

スカーフ（2種類）

・スタジオ既存グッズ

パンプキンクッキー

パンプキンオブジェ（2種類）

パンプキンパース

パンプキンラッチバッグ

II. 庶務の概要

1. 役員

平成31年3月現在

代表理事	草間	弥生
業務執行理事	建畠	哲
	大田	秀則
	大村	一裕
	中森	康文
	南條	史生
	林	知一

7 名

評議員

伊藤 正伸
渋谷 見 彰
高杉 恵
原井川 恵子
松本 透
南 雄介

6 名

監事 大森 京太
加登屋 健治

2 名

2. 組織図

